

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション	平成6年12月26日	松谷 敏樹	〒815-0035 福岡市南区向野2-10-30 (電話) 092-512-7978																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人渡邊学園	平成9年8月22日	渡邊 浩令	〒810-0001 福岡市中央区天神4-5-5 (電話) 092-713-7443																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	コンピュータ専門課程	データサイエンス学科 (メディアコミュニケーション・スポーツテクノロジー-学科)	平成7年文部省 告示第7号	-																			
学科の目的	Webデザイン、画像処理などのWeb制作技術を習得し、Web制作、映像などのクリエイティブな分野において創造できる人材を育成する。学生の知識・技術・技能の質の向上を目指し、社会に資する人材の育成を図る。																						
認定年月日	平成31年3月5日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	93単位	45単位	40単位	8単位	0単位	0単位																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
240人	387人	288人	18人	0人	18人																		
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実習・ゼミの成果、レポート提出、履修状況(出席状況・学習態度、小テスト等)を総合的に評価する。また、5段階評定に対応したGP(グレートポイント)を付与し評定平均値を算出し、GPAに基づき学修指導を行う。以下2以上が及第点 90～100点:5、80～89点:4、50～79点:3、44～49点:2、0～43点:1																			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月9日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月30日		卒業・進級条件	■出席率: 出席すべき日数の80%以上 ■成績: 学年末評価において全科目の単位取得 ■学費: 未納がないこと ■進路: 卒業年次には進路決定(留学生除く)																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携		課外活動	■課外活動の種類 レクリエーション、体育祭、文化祭																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ソフトウェア業界、ネットワーク・セキュリティ業界 ■就職指導内容 カウンセラー個人面談、家庭訪問、保護者連携、電話/メール ■卒業生数: 80人 ■就職希望者数: 30人 ■就職者数: 30人 ■就職率: 100.0% ■卒業生に占める就職者の割合: 37.5% ・進学者数: 19人 (令和4年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MOS Excel</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>情報検定3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table> ※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	MOS Excel	③	10人	10人	情報検定3級	③	11人	11人	ビジネス能力検定3級	③	11人	11人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
MOS Excel	③	10人	10人																				
情報検定3級	③	11人	11人																				
ビジネス能力検定3級	③	11人	11人																				
中途退学の現状	■中途退学者 70名 令和3年4月1日時点において、在学者 424名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 346名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 進路変更、経済的理由、家庭の事情、健康上の理由、学力不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、相談窓口開設、家庭訪問、補講		中退率	20.4% ※コース変更+0名、-8名																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学金制度(特待生:返済義務無、優待性:返済義務有) 特別支援制度(国家試験有資格者/クラブ活動優秀者への校納金等免除) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	http://www.ckg.ac.jp																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

主な就職先である情報処理技術分野において、要求される先進的且つ実践的な知識・能力を有する人材を育成する為、「教育課程編成委員会」を核として、常に授業内容の改善を図る。又、質の向上を目指し、系列のソフトウェア開発会社・大学の専門講師他と連携強化を図り、授業科目、内容、方法等の改善・工夫を継続して実行する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記(1)項の基本方針を確実に実施・運営していく為、この「教育課程編成委員会」を設置している。教育課程の編成を含め、実施内容の確認・改善を行い、全体の質の向上を図るべく、「自己評価委員会」と外部委員で構成する「学校関係者評価委員会」も設置している。この3委員会の運営は「学則」にも規定している。又、「教育課程編成委員会」はカリキュラム編成の「最終意思決定機関」とする旨を「教育課程編成委員会規則」に記載している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日時点

名前	所属	任期	種別
岩根 典之	広島市立大学 准教授	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	②
下野 雅芳	株式会社キューブス 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③
中村 俊介	株式会社しくみデザイン 代表取締役	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	③
岩木 健	株式会社ヒューマンテクノホールディングス	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③
園田 直	日本電算システム株式会社 常務取締役	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③
久原 四郎	日本電算システム株式会社 チーフエンジニア	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	③
松谷 敏樹	専門学校コンピュータ教育学院 学院長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学院長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
永井 隆太	専門学校コンピュータ教育学院 募集部長 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 募集部長	令和4年2月1日～令和6年1月31日(2年)	
渡邊 博	専門学校コンピュータ教育学院 教頭 専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 教頭	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	
小野 浩一	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	
浜本 征二	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	
伴 昭彦	専門学校コンピュータ教育学院 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	
西田 政幸	専門学校コンピュータ教育学院メディアコミュニケーション 学科長	令和3年2月16日～令和5年2月15日(2年)	
田畑 俊彦	専門学校コンピュータ教育学院 オブザーバー		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

- ・開催頻度:2回以上/年
- ・開催時期:定例として2月・10月/毎年

(開催日時)

- 第1回 令和3年10月22日 15:00～17:00
- 第2回 令和4年2月22日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等具体的に明記

ビジネスシーンで活用されているGoogleのWebアプリを、授業科目にを設定した。

また、ゼミ科目に「RPA」を取り入れ、卒業制作発表では、MicrosoftPowerPointの活用技術の習得ではなく、企画力・表現力の育成を主観とした授業内容とした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

大学の専門講師及び系列のソフトウェア開発会社等の外部委員を交えた「教育課程編成委員会」で選定したカリキュラムを、より実践的な学生教育が可能となる様、系列のソフトウェア会社等の外部講師による実習・演習を継続的に行う。年初に年度計画を策定し、連携協定書を締結する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

「教育課程編成委員会」の審議を経て編成されたカリキュラムには企業等の外部講師による実習・演習を想定した授業を組み込んでいる。教員と外部講師による審議で年間計画を策定しており、授業に際しては教員と外部講師による打合せで授業方法・学修成果の評価方法等を決定している。その授業終了後、学修成果の評価を踏まえ、教員が成績評価・単位認定を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
AI(人工知能)概論	人工知能とはどのようなものであるか(人間の知能を機械が行う)、人工知能を用いて可能なことのうち基礎を学ぶ	日本電算システム株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

情報処理産業分野における最新の知識・技術の指導を可能とし、併せて教員の資質・能力の向上の為、業界企業及び情報処理産業分野の有識者を講師とした教員研修を継続的に行う。本教員研修を計画的且つ着実に推進する為、「学則」に定め、「外部講師による教員教育訓練規程」も定めている。

(2) 研修等の実績(令和3年度)

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「明日をつくる技術者①」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:8月20日(月) 対象:担当教員

内容:社会を支えるさまざまなITとしてデジタル化の歴史・現状と課題を学ぶ他

研修名「明日をつくる技術者②」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:10月8日(金) 対象:担当教員

内容:私たちの生活をかえるITとしてSociety5.0について政府や企業の取組を学ぶ

研修名「明日をつくる技術者③」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:11月6日(土) 対象:担当教員

内容:IT技術者のスキルアップとして要求されるスキルと修得の必要性について学ぶ

研修名「明日をつくる技術者④」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:12月17日(金) 対象:担当教員

内容:明日の価値を作るIT技術者として新しい価値の発見の必要性について学ぶ

研修名「明日をつくる技術者⑤」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:2月12日(水) 対象:担当教員

内容:IT技術者の仕事 職種・各職種の仕事内容及び番外編について学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「性暴力から身を守るためにわたしたちができること」(連携企業等:公益社団法人福岡犯罪被害者支援センター)

「若者の消費トラブル最新情報」(連携企業等:福岡県消費生活センター)

期間:9月17日(水) 対象:担当教員

内容:防犯教育の問題点と今後の教育や相談の受け方と消費トラブルに巻き込まれないような指導を学ぶ

(3) 研修等の計画(令和4年度)

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「業界実務に必要な先進知識①」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:8月 対象:全教員

内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 社会を支えるさまざまなIT

研修名「業界実務に必要な先進知識②」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:9月 対象:全教員

内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 私たちの生活をかえるIT

研修名「業界実務に必要な先進知識③」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:10月 対象:専門担当教員

内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ IT技術者のスキルアップ

研修名「業界実務に必要な先進知識④」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:12月 対象:専門担当教員

内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ 明日の価値をつくるIT技術者

研修名「業界実務に必要な先進知識⑤」(連携企業等:日本電算システム株式会社)

期間:2月 対象:全教員

内容:明日をつくるIT技術者 ITが拓くその先の社会へ IT技術者の仕事

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員研修」(連携企業等:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団 福岡県専修学校各種学校協会)

期間:8月 対象:新任教員

内容:「学生・教員の為の実践心理」、「専修学校と制度」「専修学校における職業教育」

研修名「中堅教員研修」(連携企業等:一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)

期間:9月 対象:中堅教員

内容:新任への指導力ほか

研修名「留学生担当教員研修会」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

期間:10月 対象:専門担当教員

内容:留学生の日本国内での就職指導及び、管理に関する研修及び、制度や国の最新政策の情報を得る

研修名「人権・同和問題について」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

期間:11月 対象:生活指導担当教員

内容:人権・同和問題に関する知識を深め、教師及び学生に対して道徳指導に役立てる

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教職員による「自己評価委員会」の評価結果の妥当性・透明性を確保する為、外部の学校関係者が、各々の立場で教育機関としての社会性・公平性及び設備安全面等についても評価する。この評価結果は「自己評価委員会」にフィードバックされ、改善等に取組み学校全般の質の向上を図る。二つの評価委員会の結果はホームページに情報公開する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野に合致した教育理念・社会(業界)ニーズへの対応
(2) 学校運営	運営方針と事業計画・意思決定機能・業務効率化
(3) 教育活動	体系化された職業教育・授業評価・教員の能力向上
(4) 学修成果	就職率/資格取得率向上・退学率低減
(5) 学生支援	進路/就職/相談/経済的・生活環境支援/教育環境整備
(6) 教育環境	教育施設/設備/体制整備・防災設備
(7) 学生の受入れ募集	募集対象機関への情報提供・適正な募集活動/入学選考
(8) 財務	財務基盤の安定性・収支計画の妥当性
(9) 法令等の遵守	法令遵守と適正運用・個人情報保護・自己評価実施と結果公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会/地域貢献の実施・ボランティア活動の奨励/支援
(11) 国際交流	適正な留学生受入・留学生指導体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

専門分野に偏った人材でなく、総合的(コミュニケーション・プレゼン)な能力を備えた人材を育成の充実を図り、授業科目の「映像メディア制作」、「AI(人工知能)概論」など、作品の制作だけに偏ることなく、知識や技術をきちんと整理して体系的に理解できることを主観とした

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日時点

名前	所属	任期	種別
園田 直	日本電算システム株式会社 常務取締役	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
三宅 崇之	日本電算システム株式会社 担当部長	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
城井 鎮生	日本電算システム株式会社 チーフエンジニア	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	企業等委員
渡邊 実佐	平成7年3月 卒業生	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ URL: <http://www.ckg.ac.jp/public.php>

公表年月日: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

系列のソフトウェア開発会社と永年に亘る連携により、専門エンジニアの出身教員としての受入れや随時、講師として受け入れている。定期的な業務調整会議等により年間を通じ、教育活動及び学校運営について最新情報を共有している。外部の学校関係者をはじめ、広く本校をご理解頂く為、ホームページでの最新情報公開を継続する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目標/理念・沿革
(2) 各学科等の教育	設置学科・入学資格・進級基準・卒業資格・目標資格/検定
(3) 教職員	専任教員・兼任教員・職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	系列ソフトウェア開発会社講師による学生実習/教員研修
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・クラブ活動
(6) 学生の生活支援	居住/生活環境/生活相談/部活動/経済的支援/資格取得・進路就職
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	貸借対照表・資金収支計算書・消費収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ URL: <http://www.ckg.ac.jp/public.php>

授業科目等の概要

(コンピュータ専門課程 データサイエンス学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ロングホーム ルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	1通		2	○			○	○			
		○	情報社会学	IT業界における2030年問題及び2045年問題を取り巻く内容を中心に未来への心構えを身に付ける。	1前		1	○			○	○			
○			ビジネス検定Ⅰ	ビジネス能力検定3級の試験範囲「ビジネスとコミュニケーションの基本」の内容を理解・習得する。 ・キャリアと仕事へのアプローチ ・仕事の基本となる8つの意識 ・コミュニケーションとビジネスマナーの基本 ・指示の受け方と報告・連絡・相談 ・ビジネスにふさわしい話し方と聞き方 ・来客対応と訪問の基本マナー	1前		2	○			○	○			
○			ビジネス検定Ⅱ	ビジネス能力検定3級の試験範囲「仕事の実践とビジネスツール」の内容を理解・習得する。 ・仕事への取り組み方・進め方 ・ビジネス文書の基本 ・電話対応 ・統計・データの読み方・まとめ方 ・情報収集とメディアの活用 ・会社を取り巻く環境と経済の基本	1後		2	○			○	○			
			モチベーション マネジメント	モチベーションの維持・向上に関する理論や知識を身に付ける。 ※データサイエンスとの選択	1通		4	○			○	○			
			データサイエンス 概論	データサイエンスの基礎技術とその考え方を習得する。	1前		(1)	○	○		○	○			
		○	データサイエンス 基礎Ⅰ	データサイエンスを行う上で必須となるJupyter Notebookおよびpythonで統計データの使用方法を習得する。	1前		(1)	○	○		○	○			

			データサイエンス基礎Ⅱ	データサイエンスを行う上で必須となる統計データをグラフ化する方法を習得する。	1後	(1)	○	○		○	○						
			データサイエンス基礎Ⅲ	データサイエンスを行う上で必須となる機械学習の種類および使用方法を習得する。	1後	(1)	○	○		○	○						
		○	アスリート養成	身体の仕組みを理解し、トレーニングの基礎を学ぶことでアスリートを養成する。	1通	4	○			○	○						
		○	ゴールボール審判員養成	ゴールボール競技のルールを学び、体験し、審判員として実践できるように育成する。	1後	1	○		△	○	○	○					
		○	スポーツ教育学基礎演習	硬式野球を通し、地域社会でのスポーツ振興や基礎的な社会態度、道徳的模範行動を養う。	1通	10		△		○	○	○	○				
			eスポーツ教育学基礎演習	eスポーツを通し、技術や知識、協調性を養う。				△		○	○	○					
○			コンピュータリテラシー	学内システムの活用方法等を理解・習得する。	1前	1				○	○	○					
○			アルゴリズムⅠ	フローチャートにて、順次・分岐・繰り返しの基礎を理解・習得する。	1前	2	○		△	○	○						
		○	アルゴリズムⅡ	アルゴリズムⅠで習得した知識にて様々なアルゴリズムを理解する。 (ソートなど)	1後	2	○		△	○	○						
○			メディアコミュニケーション概論	メディアが生み出すコミュニケーション効果などについて学ぶ。	1前	1	○			○	○						
		○	ビジネス文書	基本的な「文章の作成」の操作を習得する。	1前	2				○	○	○					
		○	表計算	基本的な「ワークシートの編集」の操作を習得する。	1後	2				○	○	○					
		○	Word MOS	Microsoft Office specialist Wordの取得を目標とし、本ソフトウェアの活用技法を習得する。	1後	2				○	○	○					
		○	Excel MOS	Microsoft Office specialist Excelの取得を目標とし、本ソフトウェアの活用技法を習得する。	1後	2				○	○	○					

○		情報活用 I	情報活用試験3級の試験範囲の以下に示す内容を理解・習得する。 ・情報表現と処理手順 ・パソコンの基礎 ・インターネットの基礎 ・インターネットの利用	1 前	4	○		○	○								
○		情報活用 II	情報活用試験3級の試験範囲の以下に示す内容を理解・習得する。 ・情報機器の基本操作 ・情報社会のコンピュータ ・情報モラル	1 後	4	○		○	○								
○		ロングホーム ルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	2 通	2	○		○	○								
○		キャリアプラン I	各種業界や職業観を学び、学生の職業選択を支援する。	2 後	1	○		○	○								
	○	プレゼンテー ション	PowerPointの操作とプレゼンテーション技術を身に着ける。	2 前	2	△		○	○		○						
		トレーナー養成	スポーツトレーナーに必要な基礎知識を学び、トレーナーを養成する。	2 通	4	○		○	○								
		Rapsodo概論	Rapsodoより取得された投球データの見方、分析方法を習得する。	2 前	(1)	○	○	○	○								
	○	Rapsodo データ 分析 I	Rapsodoにより取得されたデータをデータサイエンスの観点から分析する。(データ取得、分析、分析結果のまとめ方)	2 前	(1)	○	○	○	○								
		Rapsodo データ 分析 II	Rapsodoにより取得されたデータをデータサイエンスの観点から分析する。(実測データ取得・分析)	2 後	(1)	○	○	○	○								
		Rapsodo データ 分析 III	Rapsodoにより取得されたデータをデータサイエンスの観点から分析する。(分析結果まとめ、考察)	2 後	(1)	○	○	○	○								
		スポーツ教育学 実践演習	硬式野球を通し、地域社会でのスポーツ振興や基礎的な社会態度、道徳的模範行動を養う。	2 通	10	△		○	○	○	○						
	○	eスポーツ教育 学実践演習	eスポーツを通し、技術や知識、協調性を養う。			△		○	○	○							
○		メンタルトレ ニング	スポーツにおいて「勝つために必要な要素」を学び、「モチベーションを維持する」ためのトレーニング方法や「悩みや挫折を乗り越える」具体的な方法を学ぶ	2 通	4	○		○	○								
○		IITP資格対策 I	ITパスポート試験の試験範囲のテクノロジー (IT技術) 分野を習得する。 ・基礎理論 ・コンピュータシステム ・技術要素	2 前	4	○		○	○								

○		ITP資格対策Ⅱ	ITパスポート試験の試験範囲のストラテジ（経営全般）、マネジメント（IT管理）分野を習得する。 ・企業と法務 ・経営戦略 ・システム戦略 ・開発技術 ・プロジェクトマネジメント ・サービスマネジメント	2後	4	○			○	○								
○		情報ネットワーク演習	ネットワークに関する知識と技術を習得する。	2前	1	○	△		○	○								
○		プログラミング概論	Pythonを使用したプログラミングの基礎を習得する。	2前	2				○	○	○							
○		プログラミング基礎	Pythonを学習し、プログラミングの基礎技術の習得する。	2通	6				○	○	○							
○		HTML・CSS	Webのフロントエンド側の技術を一通り学び、Webサイトの構築方法を学ぶ。 ・HTML （主にHTML5）	2通	6				○	○	○							
○		データベース概論	基本的なSQL操作が出来る知識を習得する。	2通	2				○	○	○							
○		ロングホームルーム	道徳・倫理を唱え、日常生活の中のものに例えながら、一般的な常識を身に付けさせる。	3通	2	○			○	○								
○		キャリアプランⅡ	各種業界や職業観を学び、学生の職業選択を支援する。	3通	4	○			○	○								
	○	スポーツ教育学実践演習	硬式野球を通し、地域社会でのスポーツ振興や基礎的な社会態度、道徳的模範行動を養う。	3前	5		△		○	○	○	○						
		eスポーツ教育学実践演習	eスポーツを通し、技術や知識、協調性を養う。				△		○	○	○							
○		SG資格対策Ⅰ	情報セキュリティマネジメント試験の試験範囲のセキュリティ分野を習得する。 ・情報セキュリティ全般 ・情報セキュリティ管理 ・情報セキュリティ対策	3前	4	○			○	○								
○		SG資格対策Ⅱ	情報セキュリティマネジメント試験範囲の法規、テクノロジー（IT技術）ストラテジ（経営全般）、マネジメント（IT管理）分野を習得する。 ・情報セキュリティ関連法規 ・テクノロジー ・ストラテジ ・マネジメント	3後	4	○			○	○								
○		ビジネスアプリ活用Ⅰ	Microsoft Outlookの基礎機能を理解し、ビジネスシーンでの活用術を学ぶ。	3前	2	○			○	○								

		○	ビジネスアプリ活用Ⅱ	Googleの各種WEBサービスが用いられる。様々なサービスの利用方法について習得する。	3前		2	○		○	○				
		○	AI概論	人工知能とはどのようなものであるか（人間の知能を機械が行う）、人工知能を用いて可能なことのうち基礎を学ぶ	3後		1	○	○	○	○	○			
		○	データサイエンス演習	学習したプログラミング言語、データサイエンス手法などを利用してデータ分析を実施するための必要なスキルを習得する。	3前		8			○	○	○			
			ホームページ制作演習	HTML/CSSを活用し、指定した課題について制作（演習）する。											
		○	データサイエンス実習	卒業研究制作のためデータサイエンス手法を利用してデータ分析を行うことを目標にします。	3後		8			△	○	○	○		
			ホームページ制作実習	卒業研究制作のためHTML/CSS制作を行うことを目標にします。											
合計				54科目	単位時間(136単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>卒業要件：3年次の科目の全科目履修及び出席率80%以上 <履修方法> ①以下の科目については、進路決定及び及び科目時間の2/3以上の出席率である事。 ・キャリアプラン ②以下の科目については、作品完成及び科目時間の2/3以上の出席率である事。 ・AI演習、ホームページ作成演習 ・AI実習、ホームページ作成実習 ③上記以外の科目については定期考査にて44点以上及び科目時間の2/3以上の出席率である事。 履修方法：1年次、2年次及び3年次の科目の全科目履修及び出席率80%以上 学年対象の全科目において定期考査にて44点以上及び科目時間の2/3以上の出席率である事。</p>		1学年の学期区分	4期
		1学期の授業期間	8週